

( 電子メール施行 )  
農技第 1275 号  
平成 30 年 8 月 21 日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第 3 号を下記のとおり発表します。  
シロイチモジヨトウの発生が多い傾向が見られており、今後野菜・花き類で被害が広く発生するおそれがあるので適切な防除指導をお願いします。

---

平成 30 年度 病害虫発生予察防除情報 第 3 号  
シロイチモジヨトウの防除対策について

- 1 対象作物 野菜・花き類
- 2 病害虫名 シロイチモジヨトウ
- 3 発生地域 県下全地域 (特に淡路地域)
- 4 発生状況
  - (1) 淡路地域で農業改良普及センターと共同で実施しているフェロモントラップ調査において、7月中旬以降誘殺数が増加傾向を示している (図 1)。
  - (2) 誘殺数は 7 月 5 半旬 : 97.9 頭 (前年 106.4 頭)、6 半旬 : 90.5 頭 (前年 95.9 頭) と、多発生した昨年と同等の発生量が見られている (図 1)。
  - (3) 一般的な生態として夏から秋にかけて密度増加時期を迎えることに加え、今後も続く予想されている高温・少雨の気象条件が発生を助長すると考えられる。
  - (4) 淡路地域のネギほ場では 5 月中旬から幼虫の発生が認められており、これから始まる秋冬作の野菜・花き類の植栽に伴って被害が拡大することが予想される。
- 5 防除対策
  - (1) 本種の加害作物はネギをはじめキャベツ、ハクサイ、レタス、ホウレンソウなどの野菜類からカーネーション、キクなどの花き類と広範囲におよぶ。
  - (2) 柔らかい部位を好んで食害するため、育苗中や定植直後にとくに被害を受けやすい。ネギでは葉の内側に潜り込んで食害することが多い。
  - (3) 卵塊 (図 2) や集団でいる若齢幼虫 (図 3) を見つけたらすみやかに捕殺する。中・老齢幼虫に対しては薬剤が効きにくくなるので、薬剤防除はできるだけ若齢幼虫期に行う。
  - (4) 成虫の産卵防止対策として、防虫ネット (目合 4mm 以下)、黄色灯、性フェロモン剤 (交信攪乱剤) の利用が有効である。
  - (5) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

## 6 その他

本年度のように夏季の気象条件が高温・少雨の場合は、チョウ目害虫（ガ類幼虫）が多発しやすい。ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ等による被害も懸念されるので注意する。

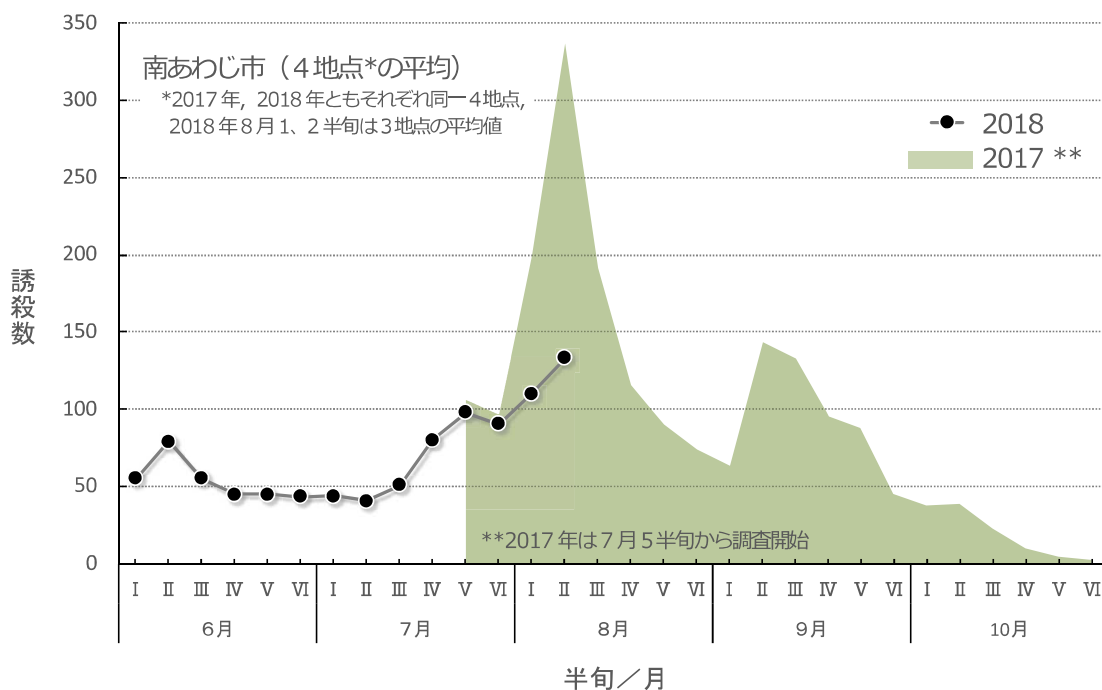


図1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ誘殺推移の比較



図2 シロイチモジヨトウ卵塊



図3 シロイチモジヨトウ若齢幼虫

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222